

## 第 1 節

### 北海道総合通信局



第1節 北海道総合通信局

770MHz 超 3.4GHz 以下の周波数の利用状況の概況【北海道】

(1) 北海道総合通信局管内の主な概要

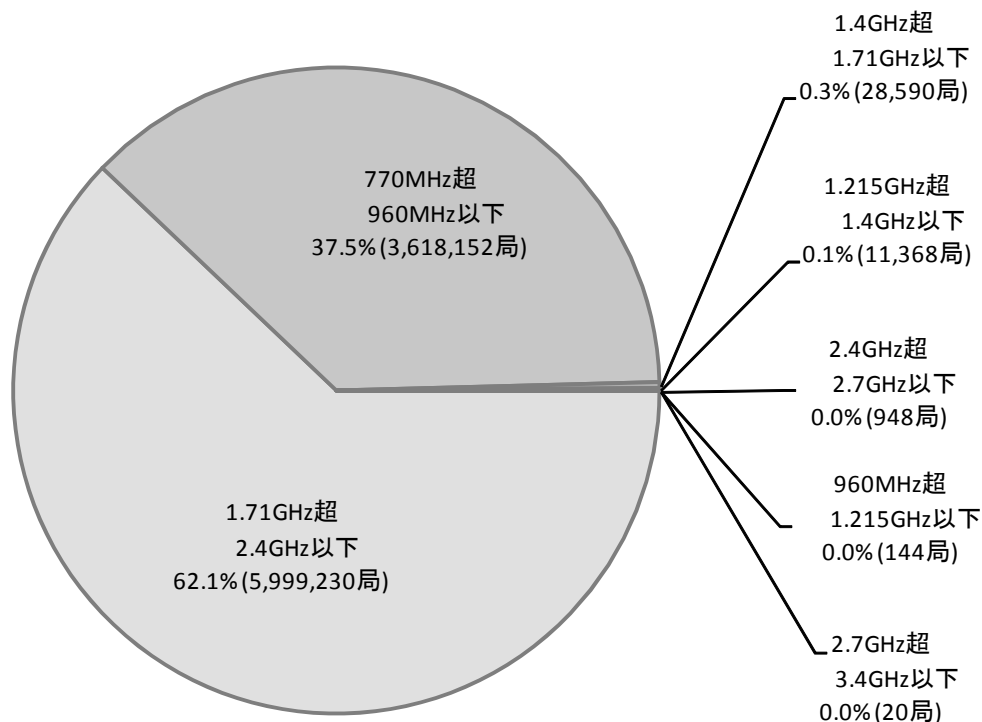
管轄地域内の都道府県	北海道
管轄地域内の免許人数 (注)	14.8 千人
管轄地域内の無線局数 (注)	965.8 万局

(注) 770MHz 超 3.4GHz 以下の周波数を利用しているもの

(2) 北海道総合通信局管内における 770MHz 超 3.4GHz 以下の周波数の利用状況の概要  
平成 22 年度の電波の利用状況調査においては、770MHz を超え 3.4GHz 以下の周波数帯域を 7 の周波数区分に分けて、その周波数区分ごとに評価する。

まず、北海道総合通信局管内（以下「北海道管内」という。）における無線局数の割合から 7 の周波数区分の利用状況をみると、1.7GHz 帯及び 2GHz 帯携帯無線通信に多く利用されている 1.71GHz を超え 2.4GHz 以下の周波数を使用している無線局数の割合が最も多く、770MHz を超え 3.4GHz 以下の周波数全体の 62.1% となっている。次いで 800MHz 帯携帯無線通信に多く利用されている 770MHz を超え 960MHz 以下の周波数を使用している無線局数の割合が 37.5% などとなっており、これら 2 つの周波数区分における無線局数の割合は、99.6% を占めている（図-北-共 1）。

図-北-共 1 周波数区分ごとの無線局数の割合

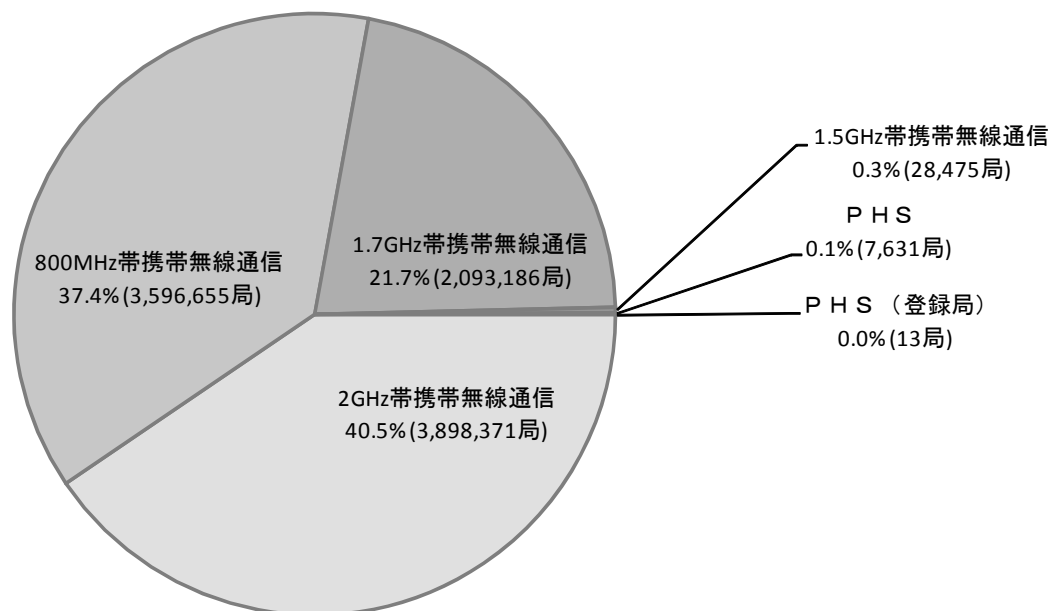


\*1 割合表示は小数第二位を四捨五入し表示しているため、割合の合計値が100%にならないことがある。

\*2 0.05%未満については、0.0%と表示している。

北海道管内における携帯無線通信及び PHS の無線局数の割合は、2GHz 帯携帯無線通信が全体の 40.5%と最も高く、次いで 800MHz 帯携帯無線通信の 37.4%などとなっている。PHS については、端末が免許不要局であるため、無線局数としては計上していないことから、無線局数は 0.1%と低い割合になっている（図-北-共 2）。

図-北-共 2 北海道管内における無線局の割合（携帯・PHS）

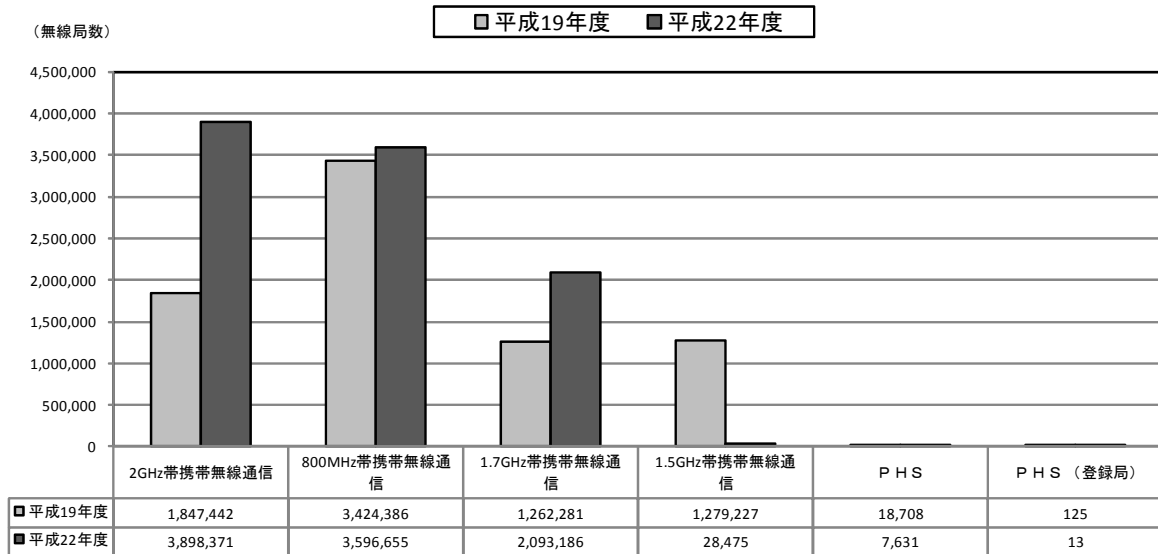


\*1 割合表示は小数第二位を四捨五入し表示しているため、割合の合計値が100%にならないことがある。

\*2 0.05%未満については、0.0%と表示している。

平成 19 年度に実施した電波の利用状況調査による各無線システム別の無線局数と今回の調査による無線局数とを比較してみると、2GHz 帯携帯無線通信が 1,847,442 局から 3,898,371 局へと約 2 倍（平成 16 年度からは約 57 倍）に増加している。一方、1.5GHz 帯携帯無線通信は 1,279,227 局から 28,475 局へと大幅に減少している。これは、携帯無線通信の第 2 世代から第 3 世代への移行が進んでいるためである（図-北-共 3）。

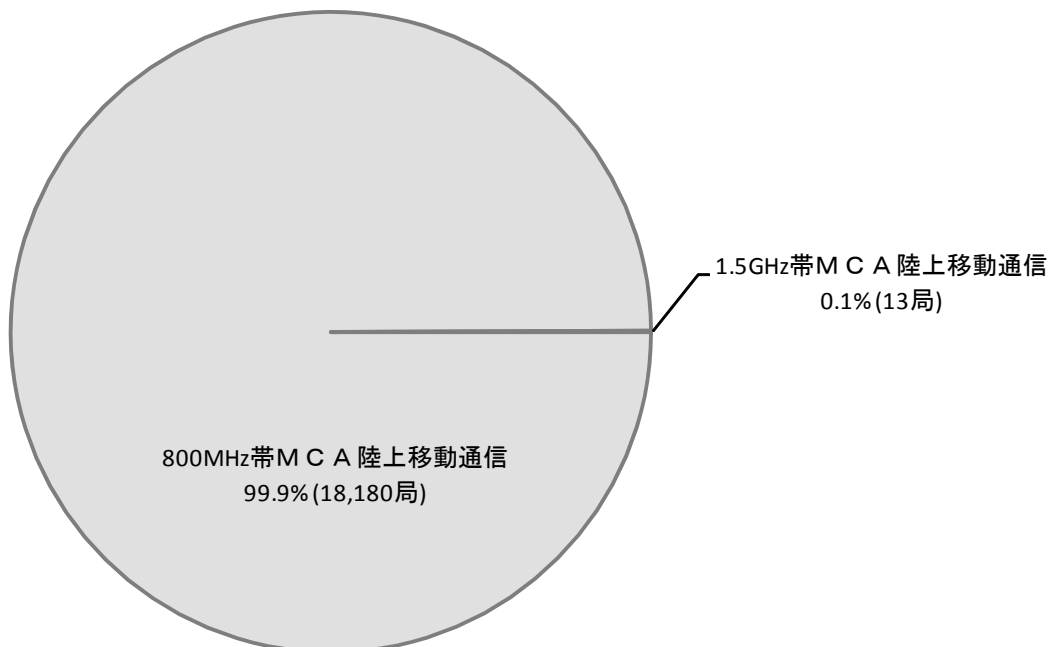
図-北-共3 北海道管内における無線局数の推移（携帯・PHS）（経年比較）



\* [-]と表示されている場合は、該当システムが存在しないことを示している。

北海道管内における MCA の無線局数の割合について、使用周波数帯別、無線局の種別ごとにみると、800MHz 帯の陸上移動局が 99.9%と最も高く、次いで 1.5GHz 帯の陸上移動局が 0.1%となっている。（図-北-共4）。

図-北-共4 北海道管内における無線局数の割合（MCA）

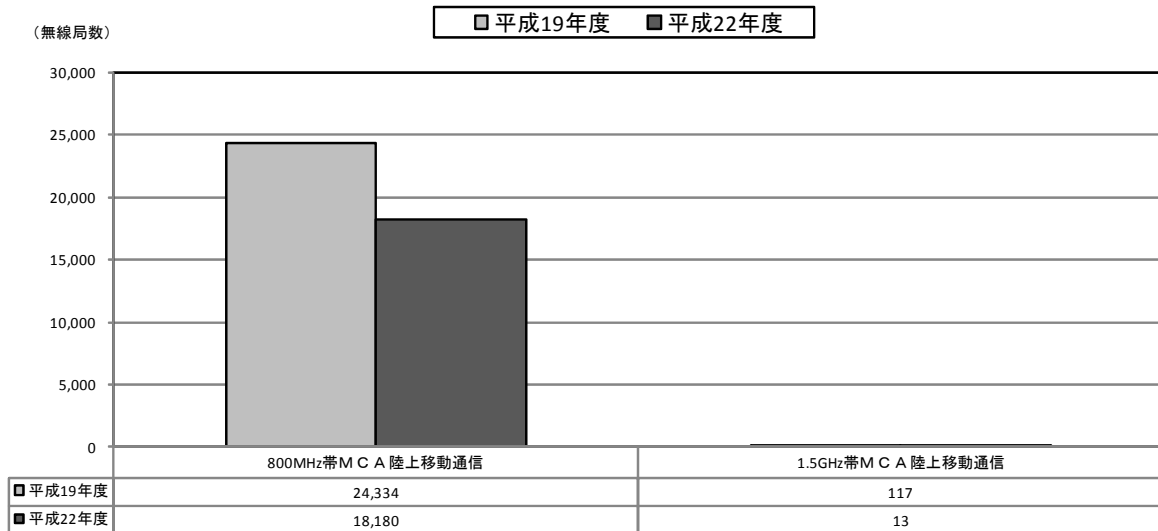


\*1 割合表示は小数第二位を四捨五入し表示しているため、割合の合計値が100%にならないことがある。

\*2 0.05%未満については、0.0%と表示している。

平成19年度に実施した電波の利用状況調査によるMCA陸上移動通信システムの無線局数と今回の調査による無線局数を比較してみると、800MHz帯及び1.5GHz帯ともに減少している。なお、1.5GHz帯については、現在、平成26年3月末までに800MHz帯へ周波数移行を進めており、また、800MHz帯については、同一帯域内においてアナログ方式からデジタル方式へ移行を進めている。北海道管内では現在、800MHz帯におけるデジタル化率（陸上移動局）は約19%となっている。（図-北-共5）。

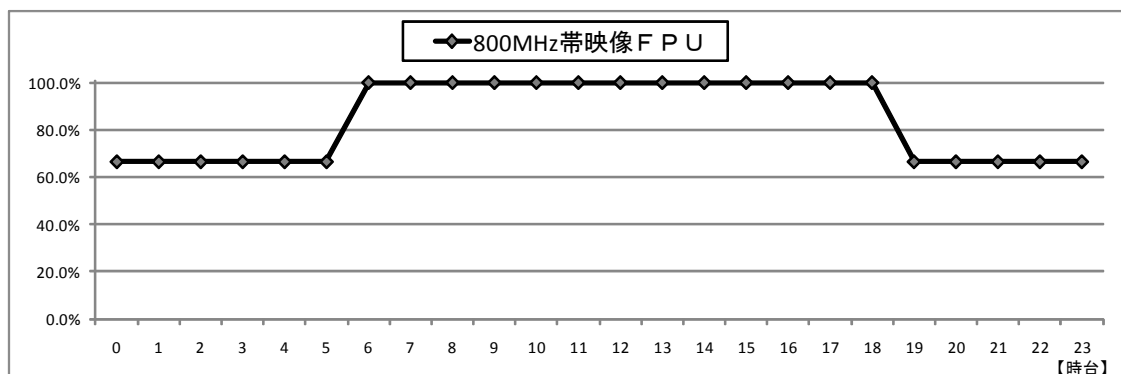
図-北-共5 北海道管内における無線局数の推移（MCA）（経年比較）



\* [-]と表示されている場合は、該当システムが存在しないことを示している。

770MHz を超え 3.4GHz 以下の周波数を使用している主な無線システムが運用されている時間帯については、図-北-共6から図-北-共12の結果となっている。

図-北-共6 通信が行われている時間帯毎の割合（770MHz超960MHz以下）



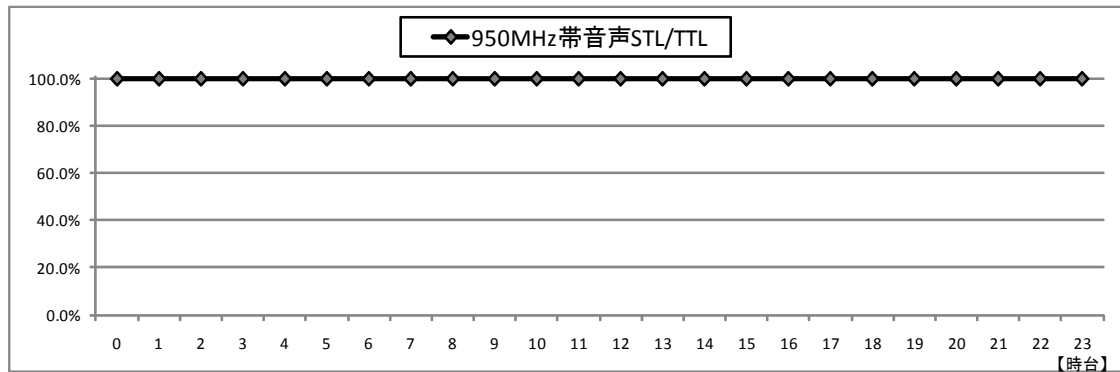
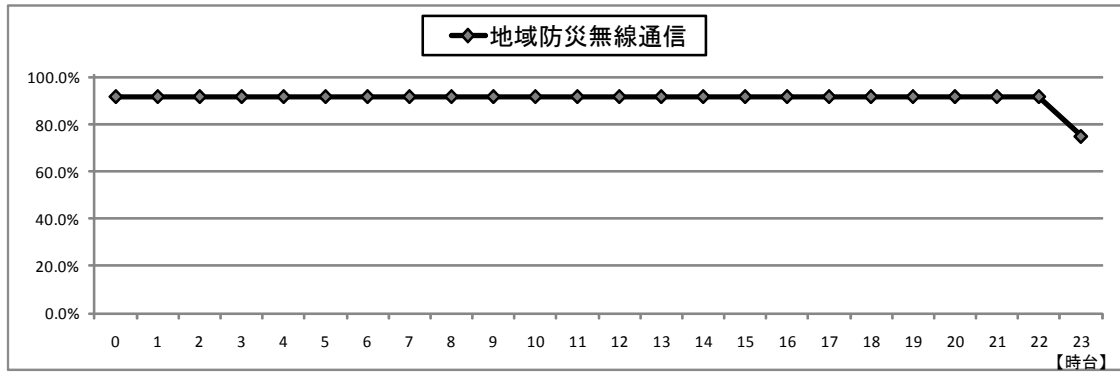
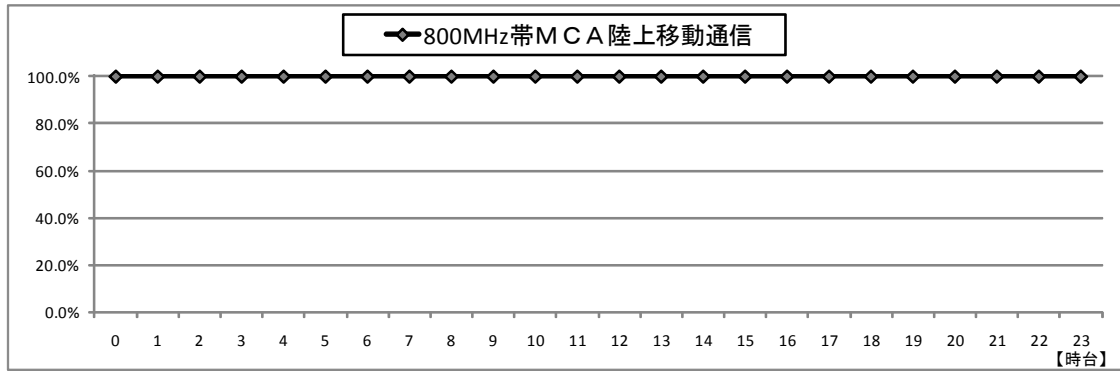
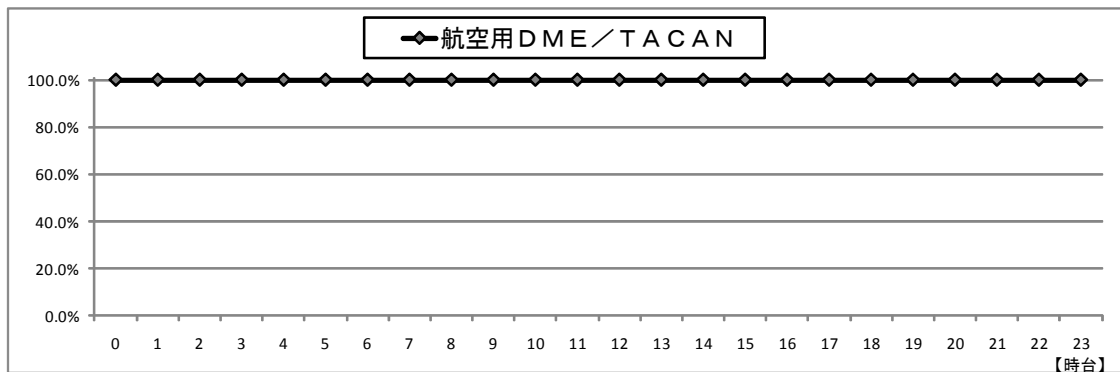


図-北-共 7 通信が行われている時間帯毎の割合（960MHz 超 1.215GHz 以下）



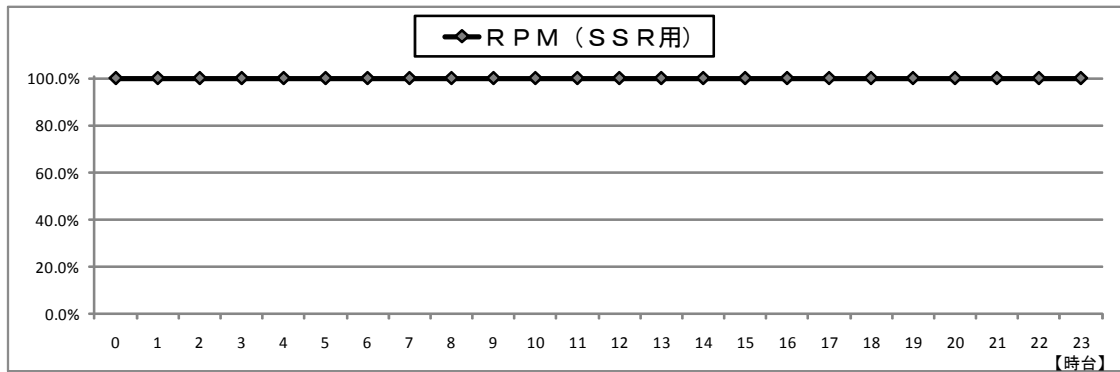
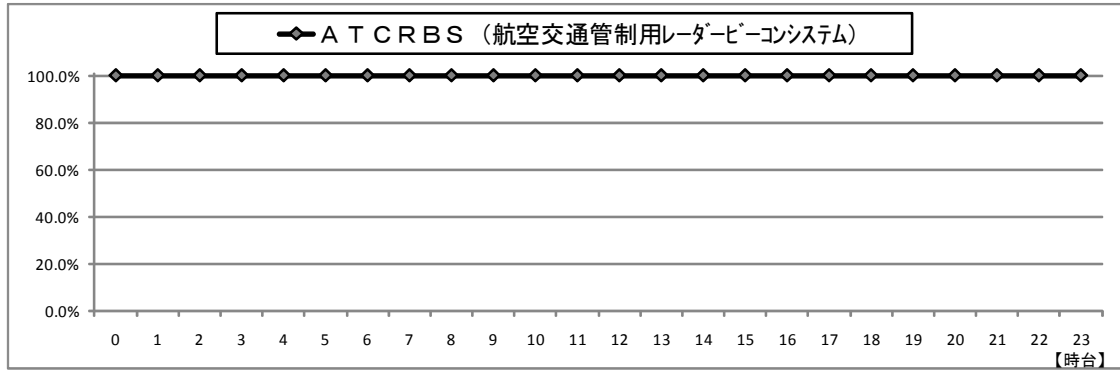


図-北-共 8 通信が行われている時間帯毎の割合 (1.215GHz 超 1.4GHz 以下)

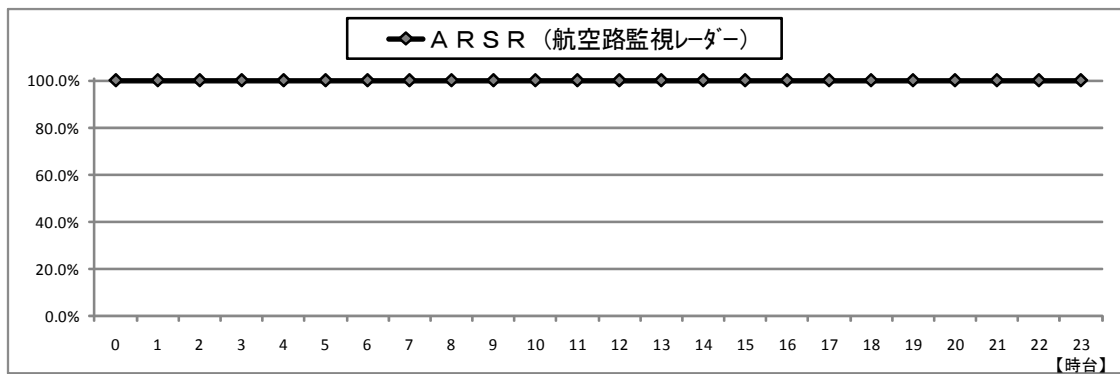
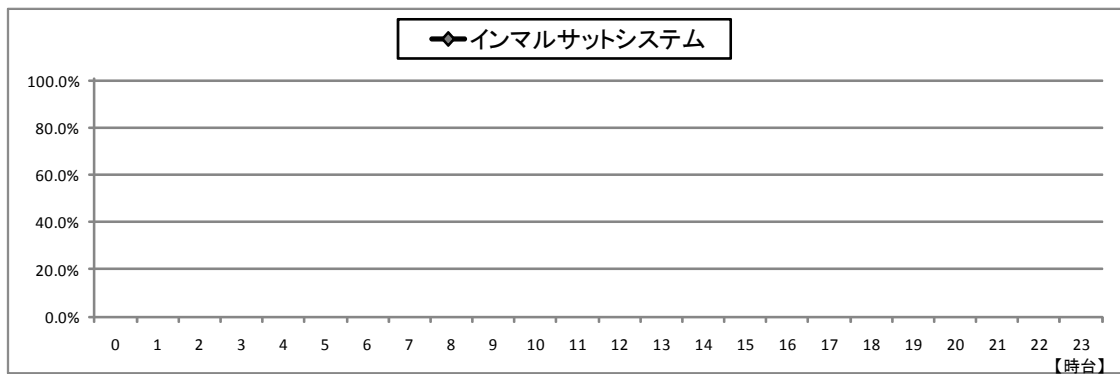


図-北-共 9 通信が行われている時間帯毎の割合 (1.4GHz 超 1.71GHz 以下)



該当システムなし



図-北-共 10 通信が行われている時間帯毎の割合 (1.71GHz 超 2.4GHz 以下)

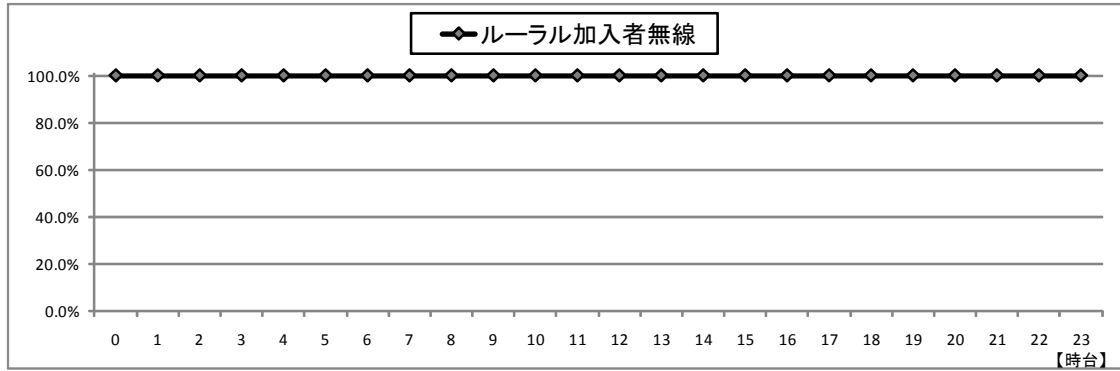


図-北-共 12 通信が行われている時間帯毎の割合 (2.7GHz 超 3.4GHz 以下)

